

経営学部派遣学生 留学体験記-1

派遣先：ベラミン大学 (USA)

派遣期間：2015年8月～2015年12月

国際経営学科3年次夏に出発



1. なぜベラミン大学に交換留学しようと思ったか？最大の目的は英語力向上であること、そして「異文化コミュニケーション」の楽しさや難しさを留学先でより深く学びたいという2点の理由から、まずアメリカ合衆国を選択しました。中でもベラミン大学は、アメリカの大学としては小さな大学で、留学生とくにアジア人の学生が非常に少な

く、英語力を伸ばすには過酷ながらも最適な場所であると考えました。また、ライティングセンターやチューター制度があり、留学生が少ないからこそ個人へのしっかりしたサポートがあると先生や先輩から伺ったことも決め手の一つでした。

2. 留学までの準備として、語学の勉強として取り組んだこと

まず1年生の夏休みに TOEFL の夏季集中講座を受講しました。Reading, Listening は自習できることが多いですが Speaking, Writing は自分で対策をとることが難しい分野だと思います。1年生の秋からは、国際交流団体 105 に入り、留学生と多く接するようになりました。また同時期に、英語で行われる「アジアグローバル経営基礎」という授業を受講しました。1年生の春学期にはマレーシアへの短期派遣留学に参加させていただきました。自分の長期留学の前にこのような短期派遣の機会をいただけたことには今でも感謝しています。その後は、JOY 生のチューターとして一緒に英語を使って日本語を学習しました。

3. 交換留学で一番嬉しかったこと：アメリカ人の親友ができたことです。私は寮に住んでいましたが、週末は彼女の家泊まらせていただき、まるでホームステイのような生活を送りました。また、サンクスギビングやクリスマスには家族の方々が私を家に招いてくれました。

4. 一番辛かったこと：英語力の低さから授業についていくことが非常に大変だったことです。グループディスカッションなど会話の多いアメリカの講義において、英語力の問題には非常に苦しみました。最初の1ヶ月、私は非常に劣等感を感じ、コミュニケーションにも躊躇してしまうことが多くなっていました。私を助けてくれたのは、日本にいた友人でした。「せっかくの機会！失敗しても大丈夫！」と背中を押してくれ、拙い英語でもいろいろな人と話すようになりました。不思議なことに、こちらが話しかけるとアメリカ人は本当に皆笑顔でたくさん話してくれます。この一歩は自分の留学生生活を左右する本当に大きな一歩でした。

経営学部派遣学生 留学体験記-2

派遣先：フリンダース大学（オーストラリア）

派遣期間：2015年2月～2016年1月 経営学科2年次春に出発



1. なぜフリンダース大学に交換留学しようと思ったか？

もともとはアメリカの大学に留学したいと思っていましたが TOEFL の点数がならず、引き続きスコアアップに励む中、留学担当の先生からフリンダース大学の話をいただき、これはいい機会だと思い、思い切ってオーストラリアへの留学を決意しました。

2. 留学までの準備として、語学の勉強として取り組んだこと

TOEFL の勉強をしている時は一冊のみ TOEFL 用の英単語帳を買い、それだけを毎日何度も繰り返し読んでいました。また、TOEFL のスピーキングやライティングの問題への解答の仕方にはある程度雛形があるので、フォーマルな話し方の練習や、論理的な文章の書き方などを TOEFL の参考書を使って取り組んでいました。しかし、勉強が嫌いだったので、留学が決定してからは海外の映画やドラマを見たり、YouTube で海外の Youtuber の動画を見たり、あるいは洋楽を覚えて歌ったり留学生と遊んだりなど、とにかく毎日楽しみながら英語に触れるようにしていました。通学している時や、シャワーを浴びている時などは、独り言や考え事を英語で実践したりもして、それが英語に早く慣れることができた理由でもあると思います。

3. 交換留学で一番嬉しかったこと

海外の国で日本語が使えないという生活を通して、頼れる存在が自分しかないという経験をしたことで、自分に自信を持つことができた上に、英語を話せるようになったことで自分の世界観がかなり広がったこと。

4. 一番辛かったこと

日本の大学の講義とは違って、向こうの大学の講義では教授と生徒との意見交換や生徒同士で議論する機会が多く、初めのうちは自分の英語に自信がない上に現地の学生の勢いに圧倒されて、自分の意見を全く伝えられなかったこと。

経営学部派遣学生 留学体験記-3

派遣先：ヨンチョピン大学（スウェーデン）

派遣期間：2015年8月～2015年12月 経営学科4年次夏に出発



1. なぜヨンチョピン大学に交換留学しようと思ったか？ 理由は主に二つあげられます。一つ目は大学2年生に1年間アメリカの大学へ同じく交換留学をしており、その1年間でアメリカ文化や生活、英語やビジネスなど数多くのことを学んだ経験があるので今度はヨーロッパの大学で勉強してみたいと思いました。二つ目の理由は、この大学がインターナシ

ョナビジネススクールであるという点です。この大学は、留学生が7割を占める、国際性抜群のビジネススクールでありアメリカ時代のドメスティックな大学とは非常に対照的な環境でした。さらに、アントレプレナーシップなどYNUでは履修できないプログラムにも同じく強い魅力を感じていたためこの大学に交換留学しようと思いました。

2. 留学までの準備として、語学の勉強として取り組んだこと

とにかく英語を使う機会を生活にできる限り取り込むことです。YNUではチューター活動しアメリカ人の学生と言語を教えあい、105にも所属していました。さらに、隙間時間は、留学生センターに足を運びそこにいる留学生と話すなどもいい勉強になります。ラジオやニュースなども聞きましたが、映画や海外ドラマの方が個人的にはモチベーションを高めることができました。その他にも英語でボランティアをやったり、英語で財務の大会に出場したりもしました。とにかく、英語を活用できるチャンスに対してアンテナを張り続けることが大切だと思います。

3. 交換留学で一番嬉しかったことと辛かったこと

交換留学で一番嬉しかったことは、世界中に友達ができたことです。この留学で40か国程度の友達ができました。YNUでは限られた国籍の人としか交流がなかった私にとって、地図でしか聞いたことがない国や、名前すら聞いたこともなかったような国からの人とも友達になることができとても嬉しかったです。特に、大変つらいことはありませんでした。しかし、例えば同じ国の人たちがかたまり、それぞれが英語でなく彼らの母国語を使って話していると、何を言っているのか全く理解できず、寂しい思いは時々しました。それもあって、自分が日本人と話すときでも他の学生と一緒にいるときには英語で話していました。

経営学部派遣学生 留学体験記-4

派遣先：ウタラ・マレーシア大学（マレーシア）

派遣期間：2015年8月～2016年1月 経営学科3年次夏に出発



1. なぜウタラ・マレーシア大学に交換留学しようと思ったか？

まず、マレーシアへの留学を希望した理由は、①イスラム金融を本場で学ぶため、②イスラムやマレーシアの習慣・文化・価値観を現地での生活を通してリアルに実感するため、③英語・マレー語を習得するため、の3つです。

UUMの経営学部と横国の経営学部は特に友好的な関係であるため、より手厚いサポートを受けられ、学びたいイスラム金融の授業を確実に取れるというメリットに惹かれて、UUMを選択しました。結果として、この選択は私にとって正解だったと思います。UUMのスタッフの方々はよく私のことを気にかけてくださり、クアラルンプールでの生活に比べ物価も安く、また自然の多い落ち着いた環境で勉強も捗ります。

2. 留学までの準備として、語学の勉強として取り組んだこと

まず1つめに、英語で行われている国際交流科目の授業を取りました。プチ留学のような経験ができ、留学準備としては大変効果的でした。2つめに、チューターとして留学生と週に1日以上会い、日常生活で困ったことはないかを聞くだけでなく、友人として他愛もない話を2時間ほどしていました。英語での会話経験が殆ど無かったため、スピーキング力が向上しました。3つめに、The Economistを購読していました。関心のある分野であり、かつ政治やビジネスで使われる小難しい英語に慣れたいという理由で読み始めました。また、Podcastの学習もおすすめです。

3. 交換留学で一番嬉しかったこと：何より嬉しかったのは、どこに行っても歓迎されたことです。日本人が殆どいない上、中東やアフリカ、東南アジア地域の途上国からの留学生が多いUUMでは、日本企業の製品サービスやアニメなどの文化も含め、彼らの国でどれだけ日本の存在感が大きいのかを語り、日本に敬意を示してくれる沢山の友人に出会いました。

4. 一番辛かったこと：大変だったのは食事と衛生面です。時折非常にストレスに感じることもありましたが、日本基準が当たり前ではないことを強く意識し自分に言い聞かせ、アウトドアキャンプとして楽しんでいました。